

平成23年度 自己評価書



宮崎市立大宮小学校

平成23年度 宮崎市立大宮小学校 自己評価書

(4段階評価) 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

平成24年 3月7日

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手だて	自己評価		自己評価の分析・考察及び改善策	
				指標別	総合		
キャリア教育	○ 教師がキャリア教育を意識しながら授業を展開している。	<ul style="list-style-type: none"> ・人を思いやり相手への気持ちを考えて行動していると回答した児童の割合80%以上→90%達成 ・将来の夢や目標をもっていると回答した保護者の割合80%以上→73%達成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育についての理論研究の推進 ○ キャリア教育の視点からの教育課程の見直し ○ キャリア教育推進計画の策定 ○ 保護者や地域住民へのキャリア教育についての理解啓発 	3.0	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育の理論研究および教育推進計画の策定を行い、キャリア教育の視点を取り入れながら授業を実践していこうとする教師の意識も格段に高まった。今後も研究を推進し、4つの基礎的・汎用的能力の育成を図るキャリア教育推進計画の策定、及びキャリア教育の視点を導入した教育課程の編成を行っていきたい。 ○ 「他者の気持ちや考えを意識して行動できる」と考えている児童が90%となり、人間関係形成・社会形成能力の基盤となる力や意識の向上がみられた。今後も意図的・系統的に人間関係形成・社会形成能力の向上を図っていくために、具体的な取組（話形表・学習習慣の定着・ノート・ICT機器の活用）を行っていく必要がある。 ○ 子どもが、将来の夢や目標をもっていると感じている保護者が73%にとどまったことから、まだ約4分の1の児童が、夢や目標をもっていないということが分かる。そのため、今後も保護者や学校支援ボランティア等の活用を図りながら、社会で活躍する大人の姿を実際に児童に触れさせる機会を多く設けることで、夢や目標の形成につなげていく必要がある。 	
	○ 子どもたち一人一人がよりよい人間関係を築きながら生活の向上に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業等における話し合い活動の充実 ○ 係活動や委員会活動の充実 ○ 家庭における子どもの役割分担の確立 ○ 子どもたちの地域活動参画への働きかけ 				2.5
	○ 子どもたちが自分の夢や目標の実現に向かって主体的に生活しようとしている。		<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育の視点を導入した学級活動や総合的な学習の時間等の充実 ○ 働く大人の姿にふれるなど豊かな体験活動の推進 				2.7
確かな学力	○ 子どもたちが基礎学力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に満足していると回答した児童や保護者の割合80%以上→児童91%、保護者87%達成 ・5年生の学力調査の正答率が県平均+5点以上→県平均+4.6点達成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 45分間授業の徹底 ○ 少人数指導や個別指導の推進充実 ○ 授業の中に「鍛える場・試す場」の設定 ○ 実物投影機・デジタルテレビの活用 	2.9	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童や保護者の80%以上が、授業に満足していると答えている。実物投影機・デジタルテレビ等の積極的活用によって、児童の興味関心の高まりが見られるとともに、参観日の授業でも活用したことなどから保護者の理解が得られたことも要因の一つと考える。今後も、デジタル機器の効果的な活用についての研修を深めていく。 ○ 5年生の学力調査の正答率は、県平均を約4.6点上回る結果であった。特に、算数の正答率は、県平均+6.2点であり、少人数指導や個別指導の効果が見られている。 チャイム黙想を全校で実施し、45分間の授業時間をしっかりと確保することができた。今後も作成した「大宮小の学習の流れ」や「大みや学習のきまり」を共通実践し、指導を徹底していく。 ○ 考える力や表現する力がついたと答えた保護者の割合は76%であった。宿題プリント等でも考える力をみる問題を出すことで、保護者の意識も高まっていると考える。授業では、学習の流れが分かるノートづくりや学習した内容についての自分の考えや思いをまとめる時間「キラリタイム」を設定し、更に力を付けていきたい。 ○ 集団思考の場や話し合い活動における練り合いを推進するために、新たに検討したノートの使い方や話型表等の一層の活用を図っていく。また、子どもたちの発表の場として、お昼の作文放送、クラブ発表等を実施してきたが、授業における小集団や学級全体での話し合いや学年集会等の充実も図っていききたい。 	
	○ 子どもたちが活用する力や豊かに表現する力を身に付けている。		<ul style="list-style-type: none"> ・考える力や表現する力がついていると回答した保護者の割合80%以上→76%達成 				<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団思考の場や話し合い活動における練り合いの推進充実 ○ 授業の中に発展問題に取り組む時間の設定 ○ 発達段階に即した話型表の活用やノート指導の充実 ○ 集会活動等、子どもたちの多様な発表の場の設定とその充実
心の教育	○ 子どもたちが自分から進んであいさつをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んであいさつができていと回答した保護者の割合80%以上→82%達成 ・「思いやりの心」など豊かな情操が育まれていると回答した保護者の割合80%以上→89%達成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「3あ運動」の「あいさつ」の啓発 ○ あいさつについての具体的指導の場の設定 ○ 児童会の主体的活動による「あいさつ運動」の推進 ○ 家庭や地域を巻き込んだ「あいさつ運動」の推進 	2.7	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8割以上の児童が進んであいさつができていと答えている。児童会の主体的な活動や全校朝会等での指導により、校内でのあいさつや会釈がよくなってきている。しかし、「大きな声で」「自分から先に」「地域の人にも」実践できている児童は多いとは言えない。今後も生徒指導週間に「あいさつ指導」を位置づけ継続的に指導していくとともに「地域ぐるみのあいさつ運動」の展開を図っていききたい。 ○ 約9割の保護者が豊かな情操が育まれていると回答している。参観日に道徳や学級活動等で人権に関する指導を実施したことも理解を得られることにつながっている。また、毎月の「思いやり週間」での指導は、友達とのかわりを見つめ直すよい機会となっている。 しかし、自己中心的な行動で相手を傷つけるなど、思いやりに欠ける行動をとる児童も見られるので、継続的に指導していく必要がある。今後、学年末に児童会での異学年交流を計画している。 	
	○ 子どもたちが相手を尊重し思いやりのある行動をしている。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 心に響く道徳の時間の推進・充実 ○ 思いやり週間の設定と指導の充実 ○ 異学年交流や異世代交流の推進 				2.8

健やかな体	○ 子どもたちが進んで運動に取り組んでいる。	・体育や昼休みに進んで運動していると回答した子どもの割合80%以上→ 86%達成	○ 体育の授業の充実による運動量の向上 ○ 新体力テスト分析結果の重点指導内容の徹底 ○ 体育実技研修による指導力向上 ○ 昼休み時間等における外遊びの奨励	2.5	2.8	○ 児童アンケートの結果では、86%の児童が運動していると回答している。しかし、新体力テストの結果からは、体力が低下傾向にあることが分かる。原因として、校舎改築や運動場緑化に伴う運動場の使用制限が考えられる。今後、体力向上プランにしたがい、準備運動に体づくり運動を取り入れたり、サーキットトレーニングに取り組みせたりするなどして、計画的・継続的に運動に取り組みせ、児童の体力を向上させていきたい。
	○ 子どもたちが健康・安全な生活態度を身に付けている。	・新体力テストで全国平均を明らかに上回る項目4項目以上→ 1.2項目達成	○ 姿勢指導（ピン・ピタ・グー）の推進 ○ むし歯治療の促進 ○ 学級活動や日常指導における安全に関する指導の充実	2.7		○ 「ピン・ピタ・グー」の合い言葉を用いながら立腰指導を行ってきた。今後も、授業開始時や授業中などに必要に応じて声かけを継続するとともに、健康の維持や安全な生活のためなど、姿勢を正すことの意義を指導していきたい。
	○ 子どもたちが食に関心をもち、食に関する基本的な習慣を身に付けている。	・よい姿勢に気をつけていると回答した子どもの割合80%以上→ 76%達成 ・好き嫌いせず食べていると回答した子どもや保護者の割合80%以上→ 90%達成	○ 学校栄養職員や地域人材等との連携による食育の推進 ○ 給食時の食事マナーの継続的指導 ○ 「大宮小弁当の日」の推進	2.9		○ 現在、むし歯のある児童の約5割が治療済みである。今後も個人への治療のすすめを行ったり、保健便りや学級便り、学級懇談などで各家庭への啓発を行ったりして健康な体づくりを推進していきたい。 ○ 学校栄養職員が積極的に給食や授業に関わり、連携することができたので食育の充実が図られ、90%の児童が好き嫌いせず給食を食べることができている。弁当の日の取組は、家庭とも連携しながら実施し、食に関する関心を高めることができた。今後は、弁当の写真を掲示して意欲を高めたり、学校保健委員会でも取り上げたりして啓発を行っていきたい。また、家庭科などの教科との関連を考えて、年間指導計画を見直していく。
学校図書館活用	○ 子どもたちが図書館を「学習・情報センター」として活用している。	・図書館が役に立っていると回答した児童の割合80%以上→ 89%達成	○ 図書館活用による調べ学習の年間指導計画の策定 ○ 学校司書と学級担任との連携推進 ○ 学校司書によるレファレンスの推進 ○ 市立図書館等とのネットワークづくり	3.2	3.2	○ 学校司書の存在は大きく、担任と連携しながら調べ学習の年間指導計画を作成したり、調べ学習等で必要な図書の収集を行ったりするなど積極的に図書館を活用することができた。今後一層図書館の「学習・情報センター」としての機能が発揮できるように、図書館での調べ学習の機会を増やしたり、学級での呼びかけを行ったりする必要がある。
	○ 子どもたちが本に親しみ、読書力が向上している。	・読書が好きになったと回答した子どもの割合80%以上→ 88%達成 ・読書量が増えたと回答した保護者の割合80%以上→ 58%達成	○ 朝の「読書の時間」の確実な実施と充実 ○ 読み聞かせボランティアの活用による「読み聞かせ」の推進・充実 ○ 子どもたちのニーズを踏まえた選書の推進 ○ 親しみやすい図書館設営の推進	3.1		○ 読書が好きになったと思っている児童は88%であり、本に親しんでいる児童が多い。朝の読書を行う機会が減っているため、短い時間でも充実した質の高い読書が行えるよう意識しながら取り組んでいく必要がある。 読書量が増えたと感じている保護者は58%であった。読み声を読書に代える日を設定するなど保護者との連携を図りながら「家読」の機会を増やす取組を行ってきたい。
	○ 学校図書館が地域の読書推進に役立っている。	・地域開放40日以上→ 10日間実施(現在)	○ 図書館だより「出会いの森」による広報の充実 ○ 蔵書の整備・充実	3.1		○ 年度途中より地域開放を始め、夏休みに5日間、冬休みに5日間の開放を行った。今後は、長期休業中に開放し自由研究等での活用を呼びかけたり、参観日やおおぎり祭りの際に開放するなど、地域の方の関心をさらに高めていきたい。
地域コミュニティ学校づくり	○ 地域人材や企業等の力を導入することで学校の教育力が向上している。	・学校支援ボランティア登録数100名以上→ 登録者数56名	○ 学校支援ボランティアを活用した授業の年間指導計画の策定 ○ 学校支援ボランティア組織の構築 ○ 学校支援コーディネーターとの連携推進 ○ 大宮地域まちづくり推進委員会との連携	3.1	2.9	○ 本年度、授業に入っていた学校支援ボランティアの延べ人数は、772人に登り、学校支援コーディネーターと担任が連携しながら、積極的に学校支援ボランティアを活用した授業が定着してきた。その成果もあり、児童の91%が授業に満足していると答えている。今後、「大宮地域まちづくり推進委員会」との連携をより深め、専門性のある地域の方の積極的活用をさらに行ってきたい。また、ボランティア一覧表を作製し、さらに活用しやすくしていくとともに、ボランティア登録についても依頼を進めていきたい。
	○ 子どもたちや教師が地域行事やボランティア活動に積極的に参加している。	・児童が地域行事に積極的に参加していると回答した児童や保護者の割合80%以上→ 児童78%・保護者69%達成	○ 総合的な学習の時間等を活用した「ふるさと学習」の推進 ○ 子どもたちの企画・運営による地域行事の促進 ○ 学校のもつ機能や教師の専門性等の地域提供の推進	2.5		○ 総合的な学習の時間において「ふるさと学習」を推進してきたが、今後は、キャリア教育の視点をふまえた学習内容・活動の改善を図っていく必要がある。また、積極的に地域行事に参加していると回答した児童は78%であった。自治会や公民館等との連携を図りながら子どもが参加する地域行事のあり方等について模索していく必要がある。